

2020年度第2回 一般社団法人日本箱庭療法学会研修会のお知らせ

主催：一般社団法人日本箱庭療法学会

日 時： 2021年2月28日（日）12：00～17：30（受付11：30～）

会 場： A P 品川（東京都港区港南1-6-31 品川東急ビル8F）

ご挨拶

日頃、さまざまな心理臨床の現場に携わっておられる皆さまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

コロナ禍の中で2020年度第1回の全国研修会は、開催を見送らざるを得ませんでした。第2回の全国研修会はオンラインも活用することで、何とかA P 品川で開催させて頂くこととなりました。

思い起こせば、2011年3月11日にも未曾有の禍（わざわい）を経験し、心痛めた日々でした。それからはや10年が経とうとしています。日本箱庭療法学会では多くのご協力・ご協賛を得て、宮城県、福島県で被災者支援活動を行って参りました。全体講演では、10年間の活動のご報告も兼ねて、「東日本大震災後10年」というタイトルで、シンポジウムを開催いたします。禍の実情を知り、禍を乗り越える人間の知に思いを巡らすシンポジウムになることと思います。どうか皆様、禍を乗り越えて、ご参集下さい。

後半には、5つの分科会を設けております。第1分科会では、禍を経験することで、それまでは深みに沈んでいた問題が浮上し、外的な問題と内的なテーマが呼応するという現象に目が向けられます。これは2016年に起きた熊本地震の被災者支援活動を行なった岩宮恵子氏による分科会です。また他の4つの分科会でも、直接的には禍と関わりのないかのように見える心の問題が、外界の問題と重なり合う部分も見えてくることもあるのではないかと考えております。禍による揺らぎの鎮魂となる全国研修会になりますよう念じています。皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます。

2020年12月吉日

一般社団法人日本箱庭療法学会 研修委員長 川戸 圓

<開催要領>

1. 定 員：250名（オンサイト／オンライン）

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会場に来場いただく「オンサイト」参加と、ZOOMを使用して視聴していただく「オンライン」参加の選択可能な混合開催となります。なお、今後の感染状況等に応じて、開催方法など変更の可能性がありますことご了承ください。

2. 参加資格：以下の条件のいずれかを満たす方とします。

- ①一般社団法人日本箱庭療法学会会員
- ②箱庭療法を導入・または導入を検討中の児童相談所・児童養護施設等の心理職に従事されている方
- ③箱庭療法を導入・または導入を検討中の学校等教育機関の保健・養護領域に従事されている方
- ④臨床心理学およびその関連領域で実践的な仕事に従事されている方で、心理臨床事例に関する守秘義務を遵守できる方
- ⑤心理臨床を専攻する大学院生

3. 参加費：学会員：4,000円 非会員：7,000円 大学院生（非会員）：5,000円

4. **研修ポイント**：本研修会への参加は、臨床心理士教育・研修規程別項第2条(3)により、一般参加者は2ポイント、事例呈示者は4ポイント取得となります。

5. **研修内容**：

(1) **シンポジウム**：12：00～14：30

テーマ：「東日本大震災後10年」

シンポジスト：河合俊雄（京都大学こころの未来研究センター）

渡部純夫（東北福祉大学）

指定討論：岩宮恵子（島根大学）

司会：田中康裕（京都大学）

<概要>

東日本大震災からはや十年の月日が経とうとしている。本学会では、日本ユング派分析家協会(AJAJ)と協同して、震災直後から、宮城県と福島県で「支援者の支援」を主眼とした被災者支援活動を展開してきたが、節目の10年を迎えるに当たり、その活動について振り返りたい。

これまでに行われてきた支援活動は、それぞれの地域の被災状況、その土地の風土や文化とも深く関わり、極めて地域個別的であった。それゆえ、今回のシンポジウムでは、それぞれの地域を代表して、実際の支援にかかわってきた河合俊雄氏（宮城県）、渡部純夫氏（福島県）にこの間の支援活動について報告していただき、2016年の熊本地震後の被災者支援活動を行っている岩宮恵子氏に、指定討論していただく。

このような構成のシンポジウムを通して、被災者支援とは何か、当学会が目指した「支援者の支援」とは何かについて、今一度深く考える機会となればと祈念している。

(2) **分科会**：15：00～17：30

以下の5グループに分かれ、分科会を行います。

事例呈示を募集している分科会は、概要の最後に<事例募集>の表記のある分科会です。事例呈示希望者は、「6. 参加・発表申込について」をご参照の上、お申し込みください。

● **第1分科会 岩宮 恵子（島根大学）**

『臨床の「場」としての「箱庭』』

震災に遭うということは、当たり前前にあった生活の場が突然、奪われ、日常が一転する体験である。そして日常を奪われて混乱しているクライアントをケアする場として機能するはずの臨床の「場」自体も、同時に大きく損なわれることになる。このようななかで、その傷ついた現場にいる治療者は、どのような支援をすることが可能なのだろうか。

今回は、地震によってそれまで水面下にあった家族の問題が表面化した小学生女兒と、病院が壊滅的な被害を受けて臨床の場を失った治療者が、持ち運びのできる簡易式の箱庭に向かい合うなかで、治療的な「場」をどのように生成していったのかを考えていきたい。

また、そのプロセスが、どのようにそのクライアントの内的なテーマと呼応しあっていたのかについてもフロアのみなさんと考えてみたい。（事例提供者：尾上美由紀氏）

● **第2分科会 河合 俊雄（京都大学こころの未来研究センター）**

『箱庭療法と語り』

箱庭療法の強みとして、具体的な葛藤などを語ることなく、心理的なプロセスがイメージで展開できることが指摘されてきた。しかし心理療法のなかで箱庭を作った後で、強いアグレッションが表明されたり、これまで話題に上らなかった衝撃的な話が語られたりして、語りが大きく変化することがある。その意味を考えると、事例にも沿って検討したい。（事例提供者：三浦亜紀氏）

● **第3分科会 田中 康裕（京都大学大学院教育学研究科）**

『「主体（脆弱性）スペクトラム」へのイメージを用いた心理療法』

「自閉症スペクトラム」の概念が呈されて約40年が経つが、今や心理療法の実践においては、「病態水準」による見立てだけでなく、その個人の「発達水準」（発達スペクトラム）の見立てが必要となっている。そこでは、抑圧が主たる防衛機制と認められる古典的なヒステリーとは異なる、今日風のヒステリーや解離、摂食障害、「自閉症スペクトラム」のなかでも典型例とは思えない事例までを

も包摂する、いわば「主体（脆弱性）スペクトラム」を想定する必要がある。この分科会では、杏林大学保健学部の北山純氏に事例提供していただき、そのようなクライアントへのイメージを用いた心理療法について考えたい。（事例提供者：北山純氏）

● 第4分科会 桑原 知子（放送大学）

『箱庭の表現を「聴く」』

カウンセリングでは、クライアントの「語り」を聴く。では、箱庭療法においては、セラピストは何を、どのようにして受け取るのだろうか。

箱庭は、何も音を出してはいないし、声も聞こえない。しかし、実際には、（受け取ろうとすれば）、何かを「語り」、表現している「声」を聴くことができるのではないだろうか。そして、どうすればそれを「聴く」ことができるのだろうか。

本分科会においては、箱庭療法において表現されるものを、どのようにして聴くのか、また、何が受け取れるのか、その「聴き方」について考えてみたい。＜事例募集＞

● 第5分科会 川崎 克哲（学習院大学）

『“2（ツイン、シンメトリー）” イメージの意味について』

心理療法の中で報告される夢や作成される箱庭、描画などにおいて、“2”のイメージはしばしば現れる。そのような“2”のなかでももちろん、男-女 や 白-黒、生-死 などの“対立する2”のイメージも極めて重要であるが、双子（ツイン）的な“見分けがつかない2”や、はっきりせず漠然としている何か“2”つあるといったイメージ、あるいはこれらと似ているがなにか“2”つがシンメトリー的な配置で現れる場合も重要な意味があると考えられる。

本分科会では、夢などにも触れながら、風景構成法を中心にして、描画の中で描かれる双子的、シンメトリー的な“2”の心理臨床的意味・意義を検討していきたい。（事例提供者：野島伸恵氏）

6. 参加・発表申し込みについて

WEBによる参加・事例発表申込方法

【参加申込】

当会ホームページ（<http://www.sandplay.jp/training.html>）および右記 QR コードの申込フォームよりお申し込み下さい。申し込みが完了しましたら、自動返信メールが送信されます（※パソコン、スマートフォン対応）。自動返信メールが届かない場合は、日本箱庭療法学会全国研修会事務局（training_jast@sandplay.jp）までお問い合わせ下さい。



【事例発表申込】

上記と同様の申込フォームよりお申し込みいただけます。事例発表を「希望する」にチェックし、申込フォーム上にある＜事例概要記入シート＞にご記入の上、別途メール添付で日本箱庭療法学会全国研修会事務局（training_jast@sandplay.jp）までお送りください。参加申込締切後、事例発表の可否について、事務局よりご連絡いたします。

※＜事例概要記入シート＞は、当会ホームページからもダウンロードしていただけます。

FAXによる参加・事例発表申込方法

※メールアドレスをお持ちの方は、WEBからのお申し込みを推奨します

【参加申込】

同封の参加申込書所定欄に必要事項をご記入の上、一般社団法人日本箱庭療法学会事務局（06-6233-8529）へFAXにてお申し込みください。お申し込みを事務局で確認でき次第、受領FAXを送信いたします。返信FAXが届かない場合は、事務局までお問い合わせください。

【事例発表申込】

参加申込書裏面に必要事項をご記入の上、参加申込とあわせてFAXをお送りください。

※ **事例発表申込締切：2021年1月27日（水）【必着】**

※ **参加申込締切：2021年2月5日（金）【必着】**

・お申し込みは、原則として先着順とさせていただきます。

- ・分科会コースの通知はおこなわず、お申し込みいただいた分科会で受付けさせていただきます。
- ・定員となった分科会より締め切らせていただきます。希望者多数の場合にはご参加いただけない場合もございますので、予めご了承ください。

7. 参加費振込みについて

- ・自動返信メールもしくは、返信 FAX を受領後に、以下の口座へ参加費をお振込みください。

<郵便局・ゆうちょ銀行から振り込まれる場合>

振込先： 00900-8-233788

加入者名： 一般社団法人日本箱庭療法学会研修委員会

<他金融機関から振り込まれる場合>

銀行名：ゆうちょ銀行

店番：099

預金種目：当座

店名：〇九九店（ぜろきゅうきゅう店）

口座番号：0233788

- ・振込される際に、自動返信メール内に記載されている【受付番号】をお名前の前に必ずご記入のうえ、お手続きください。
- ・振替用紙を使用される場合、通信欄には「2020年度第2回全国研修会参加費」と自動返信メール内に記載されている【受付番号】とお名前をご記入ください。
- ・納入された参加費のご返金はできませんので、予めご了承ください。

※ 参加費振込締切：2021年2月12日（金）

8. 研修ポイントについて

シンポジウム、分科会の両方に参加した方には、日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士教育・研修規程別項」第2条(3)「本協会が認める関連学会での諸活動への参加」の通り、受講者には2ポイント、分科会での事例発表者には4ポイントが付与されます。参加証が研修証明書の代わりになりますので、参加証をご希望の方は申込時に「参加証の発行について」の項目で【希望する】にチェックを入れてください。

9. 参加証について

オンサイトで参加された方には、当日受付にて参加証をお渡しいたします。

オンラインで参加されて参加証をご希望の方には、研修会終了後、参加されたことを確認のうえお送りいたします。

10. 会場案内

<東海道新幹線・JR 各線・京浜急行線をご利用の場合>

「品川駅」港南口より徒歩6分

※アクセスの詳細については、AP品川のホームページをご参照ください。

(<https://www.tc-forum.co.jp/ap-shinagawa/access/>)

11. 研修会に関するお問合せ先

一般社団法人日本箱庭療法学会 全国研修会事務局

住所：〒541-0047 大阪府中央区淡路町4-3-6 新元社内

FAX：06-6233-8529

E-mail：training_jast@sandplay.jp